

開倫塾の塾生・保護者の皆様へ

御入学、御進級おめでとうございます

—開倫塾の活用方法—

開倫塾

塾長 林 明夫

お読みになりやすいように、QandA の形で書かせて頂きます。予め御了承下さい。

はじめに

Q：はじめに一言どうぞ。

A：（林明夫：以下省略）皆様、新しい学校への御入学、新学年への御進級おめでとうございます。
心よりお慶び申し上げます。

私は、開倫塾の創始者であり、また、全体の責任者である林明夫です。どうかよろしくお願い申し上げます。開倫塾では、塾生・保護者・地域社会の皆様を対象に、この「開倫塾ニュース」を毎月 1 回、月の初旬に発行しております。「開倫塾ニュース」を通して、学校成績の向上と希望校合格の方法をお伝えすると同時に、開倫塾の教育目標である「高い倫理」、「高い学力」、「高い国際理解」、「自己学習能力の育成」とは何か、どのようにしたら自覚を持って勉強することができるのかなどについて、皆様とご一緒に考えていきたいと思ひます。

私の担当ページは 2 ページ目の「巻頭言」であります。が、「開倫塾ニュース送付の御案内」の文章を「塾長通信」として、毎月このような形で書かせて頂いております。長目の文章になり恐縮ですが、「一所懸命」に「一つの所で命を懸けるくらい熱心に」書かせて頂く所存ですので、是非御熟読頂ければ幸いです。

尚、私が執筆した原稿の多くは、開倫塾のホームページ(www.kairin.co.jp)の中にある「林明夫のコーナー」に掲載しておりますので、「お気に入り」にでも入れて頂き、週に 1 ～ 2 度お開きになり御高覧を賜れば幸いです。ホームページには、22 年目に入った CRT 栃木放送で放送中のラジオ番組「開倫塾の時間」の過去の放送内容も速記録として順次掲載しております。社会人も含めて一生涯活用できる「効果の上がる勉強方法」に絞り込んだ内容を入れるように努めております。ホームページには、この「開倫塾ニュース」のために書かせて頂いている内容も含め、毎月いくつか新しい内容を入れるよう努めておりますので、週に 1 ・ 2 度是非御覧下さいませようお願い申し上げます。

Q：新入学を迎えるにあたっての心構えをお聞かせ下さい。

A：余り焦らなくてもよいですが、新しい学校に入学を果たした方は、この学校でこれから卒業ま

でに何をするのかを、教科書配付やオリエンテーション、入学式などの学校行事に参加しながら、はっきりお決めになることをお勧めします。

私は、何をするためにこの学校に入学したのか、この学校を卒業してからはどうしたいのかを真剣に考え、短い言葉でもよいですから、その考えを手帳や日記帳、ノートブックに書き記しておくこと。そして、入学時の初心を忘れないように、卒業する日まで、毎日のように自らの入学時の考えを読み続けることをお勧めします。

Q：新しい学年に進級する人の心構えは何ですか。

A：高校3年生、中学校3年生、小学校6年生は、卒業までもう1年を切りました。開倫塾の塾生の皆様は、高校3年生であれば全員が大学入試を、中学校3年生であれば全員が高校入試を、小学校6年生であれば何割かの方が私立中学校や公立中高一貫校の入試を、来年の1月過ぎから受験なさいます。この文章を皆様がお読みになられるのは4月初旬ですので、来年の1月まではあと9か月となりました。つまり、皆様は9か月後に入学試験の受験会場に行くことになります。

また、最近盛んな推薦入試は、本年の9月からスタートしますので、皆様の中にはあと5か月で入試を迎える人もいらっしゃいます。

高校3年生、中学校3年生、中学入試を受験する小学校6年生は、今年は受験の年であり、その受験当日までは9か月しかないことを「自覚」することが最も大切な心構えと考えます。

Q：受験生であるという「自覚」は大切ですか。

A：「自覚」があるかないかは、合格するか不合格になるかに直結します。「自覚」があると、合格の可能性がどんどん高まります。「自覚」がないと、「自覚」のある他の人が猛烈に勉強し始めますので、合格の可能性がどんどん低くなります。

Q：「受験生としての自覚」とは何ですか。

A：自分は、9か月後に受験を控えた受験生である。自分の志望校に合格するための「偏差値」は〇〇で、現在の自分の偏差値は△△である。現在の自分の偏差値が志望校の偏差値を大幅に上回っている場合は、その維持に努める。ギリギリの場合や下回っている場合は、合格を確かにするためにはもう何ポイントか上げる必要がある。このように、「自覚」とは、自分の現在の状況を素直に認めた上で、合格を確かなものにするためにはどうしたらよいかを考えることであると思います。

「自覚」は、積極的・主体的な「行動」を呼び起こします。自分は受験生であるという「自覚」を持ち、睡眠時間(7～8時間)と食事の時間、風呂の時間、トイレの時間、通学時間など生活に必要な不可欠な時間以外はすべて勉強という生活にすれば、学力はどんどん身に付きます。受験生としての「自覚」が高まれば、「開倫塾の授業」はもちろんのこと、「学校の授業」も目を輝かせて積極的に受けるようになりますので、授業中にもどんどん学力が身に付きます。

Q：「受験生としての自覚」を持つには、どのようにしたらよいでしょうか。

A：「志望校」が決まっていない場合は、一日も早く決めることです。迷っている場合は、保護者の方と一緒にいくつかの学校を直接訪問し、学校に事情を話して、見学することをお勧めします。

Q：高校2年生、中学校2年生、小学校5年生は、どのような心構えをしたらよいのでしょうか。

A：本音を言えば、入試まで1年9か月なので、志望校だけでもはっきり決め、「自覚」を持って充実した毎日をお過ごしになることを希望いたします。

「私は〇〇の学校に行き、△△をしたい」とはっきり目標を決めて勉強をするのと、「きのうのように今日があり、今日のように明日があればよい」と将来のことを何も考えずに過ごすのでは、2年後の結果が大きく異なります。1年後には受験生全員が必死になって受験勉強に精を出しますので、余裕のある今から「自覚」を持ってじっくり机に向かうことで、「ゆとり」をつくり出すことをお勧めいたします。

Q：学力は、何によって決まるのですか。

A：「読書量」と「自分で勉強する能力を身に付けているか否か」で決まると、私は考えます。

皆様は、私立中学校入試や公立中高一貫校入試、高校入試、大学入試の問題を御覧になったことがありますか。各科目とも、学校の教科書なら何十ページ分にもあたるものを、短い時間の中でスミからスミまで読んだ上で問題を解き続けなければなりません。長く難しい文章を読む力がなければ問題は解けませんので、学力向上のためにも「読む力」は必要です。ですから、「読書量」は欠かせないと私は確信します。

「学力」とは何かについては、入学試験に合格する力を「学力」ということもできますが、PISA(15歳時の学力到達度調査)を行っているOECD(経済開発協力機構)は、「キー・コンピテンシー(鍵のように大切な基本的能力)」として次の3つを挙げています。

- (1) 知識や情報、技術を相互作用的に用いる能力
- (2) 多様な集団で交流する能力
- (3) 自律的に活動する能力

これらの3つの大切な基本的能力を身に付ける上で最も大切なことは、「学校などで行われる教育」と、社会的な参加、新聞を含めての「読書」の量であると考えられています。

さらに、Learning To Learn(ラーニング・トゥ・ラーン 学び方を学ぶ)スキルを身に付けていること、つまり自己学習能力を身に付けていることも、これらの能力や「学力」を身に付ける上で欠かせません。

Q：間もなく行われる学校の定期試験で100点を得るには、どうしたらよいでしょうか。

A：定期試験は、誰でも全科目100点が取れます。但(ただ)し、1～2日ですべての科目の試験が行われますので、準備には時間がかかります。1週間では不十分で、最低でも定期試験の2週間前からダッシュをかける必要があります。1か月前から、1か月後には定期試験があると「自覚」

して机に向かえば、誰でも全科目 100 点が取れます。

勉強の仕方は 1 つしかありません。テスト範囲内の内容について、教科書と副教材、授業中に先生に教えられた内容を記録したノートのスミからスミまで一語も残さず完全に覚え込む(暗記する)ことです。

「深く狭く」に徹した勉強、スミからスミまで覚え込む(暗記する)勉強で、定期試験で 100 点を取ることができます。

* この勉強の方法も、開倫塾の塾生である間に確実に身に付けて下さい。将来いろいろな試験を受けるときにも役に立ちます。

Q：暗記するには、どのようにしたらよいのですか。

A：いろいろなやり方があるでしょうが、一度「うんなるほど」と「理解」した内容について、「音読練習」、「書き取り練習」、「計算(問題)練習」を何十回も何百回も繰り返すことが効果的であると、私は考えます。「練習、練習、また練習」です。是非お試し下さい。

Q：最後に一言どうぞ。

A：(1)開倫塾では、小学生は 20 分、中学生は 40 分、高校生は 60 分以上新聞を丁寧に読んで、ものごとを考える力を身に付けることをお勧めしています。

そこで、保護者の皆様をお願いしたいことは、一日前の不要になった新聞を塾生にプレゼントして頂きたいということです。塾生の皆さんは、その新聞を丁寧に読み込んで下さい。そして、「これは」と思う記事を毎日 1 つか 2 つくらい切り抜いてノートなどに貼り付け、繰り返し読むこと。「読書量」が確実に増え、「学力向上」に直結します。自分の意見や感想、コメントなどを書き続ければ、現代社会で最も求められる「批判的思考能力(クリティカル・シンキング)」が少しずつ身に付きます。

(2)開倫塾では、「開倫塾 15 の躰(しつけ)」運動を毎年行っています。1 年間に 15 の項目を設け、それらを「躰(しつけ)」として身に付けて頂く取り組みをしています。

「躰(しつけ)」とは、「美しい立居振舞」と「敬語表現を含む言葉づかい」を意味すると私は考えます。元気なあいさつや相手に対する思いやりなどは、大事な「躰(しつけ)」であります。「15 の躰(しつけ)」の最初は、「靴を手でそろえる」です。常に自分の足元を見ること。「靴を手でそろえる」ことは「美しい立居振舞」の第一歩と考えます。

(3)開倫塾には、秘密厳守で費用一切無料の「教育相談室」があり、専門の相談員の先生が 2 名いらっしゃいます。困っていることがありましたら、どんなことでも御遠慮なく御相談下さい。毎年 100 近くの御相談があり、その多くはほぼ解決しているとの報告を受けています。御相談のある方は、校舎の校長または開倫塾教育相談室(0284-73-7812 高尾)まで直接御連絡下さい。

(4)家で勉強できない塾生の皆さんには、開倫塾の空いているスペースで、保護者の方の申請と校長先生の許可を得た場合は、授業時間以外にも自習を認めます。自習のルールをよく守

れば、授業のない曜日や授業前、授業後の自習を、費用は一切無料で認めます。(ケイタイやおしゃべり、漫画、ゲーム、居眠り、飲食は禁止です。)開倫塾で自習を大量に行い、学校成績を大幅に上げたり、偏差値を 10 ～ 20 上げた塾生は、過去にたくさんいます。但し、どんな場合でも、防犯上の理由から夜 10 時 30 分前には必ず帰宅して下さいようお願い申し上げます。夜 10 時 30 分以降塾生が居残ることは、開倫塾では一切認めません。絶対的な禁止事項です。夜 10 時 30 分以降は家庭で勉強して下さい。この防犯上のルールだけは必ずお守り下さい。保護者の皆様にも、御理解と御協力を心からお願い申し上げます。

(5)開倫塾の教育内容について御意見のある方は、どうか御遠慮なく担当の先生、校長、本部(0120-066555)の島田総務部長まで御連絡下さい。

私に御意見のある場合は、0120-066555 FAX 0284-73-1520、または、
〒326-8505 足利市堀込町 145 開倫塾 林明夫まで、御遠慮なく御連絡下さいますようお願い申し上げます。

今年 1 年どうかよろしくお願い申し上げます。

以上